

<研究名称>

タブレットオーディオメータの信頼性と有効性

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 リハビリテーション科 技師長 木村 和久

実施担当者 リハビリテーション科 言語聴覚士 中澤 肇

<研究期間>

2019年7月16日～3年間

<診療・研究の目的>

スポンジタイプの耳栓を外耳道に挿入するインサートイヤホンを使用するタブレットオーディオメータは、軽量で持ち運びでき、ある程度騒音に強く、ベッドサイドや地域包括支援事業の場で、効果的なツールとして考えられる。タブレットオーディオメータを用いた研究は散見されるが、地域リハビリテーション活動支援事業において、タブレットオーディオメータを導入し、聴力検査を実施した取り組みはない。地域リハビリテーション活動支援事業においてタブレットオーディオメータを導入するためには、防音室以外でタブレットオーディオメータを使用し、結果の信頼性を検証する必要がある。そこで、言語聴覚療法を受けている、当院入院患者数名（10名程度）にタブレットオーディオメータと一般的なオーディオメータの標準純音聴力検査（気導）を実施し、その結果に高い相関を認めるか Pearson の積率相関係数を求める。

<実施内容（方法）・危険性（副作用）等>

（1）実施内容（方法）

対象は、研究の趣旨を説明し、口頭で同意を得られた言語聴覚療法を受けている当院入院患者。対象患者は、口頭でのやりとりが十分可能で、聴力検査時の教示を十分理解され、円滑に検査をすることが可能な方。防音室でオーディオメータ（リオン、AA-H1）を用いた標準純音聴力検査（気導）は、参加者に気導受話器を装着してもらい、車椅子座位で対面式で行う。検査は上昇法で行い、音が聞こえたら応答ボタンを押してもらい。病室（防音効果なし、騒音レベル 約 40 dB (A)）ではタブレットオーディオメータを使用し、インサートイヤホンを装着してもらい、ベッドサイドで実施する。周囲に騒音が発生した場合は、検査を一度中断し静かになったのを見計らい再度検査を続行する。参加者に手元が見えないようにオーディオメータを操作し、挙手法で音が聞こえたかを確認する。機器は iAudiometer（Melmedotoronics 社、米国）搭載の iPad に ER-3A インサートイヤホン（3M 社、米国）を接続して使用する。防音室における標準純音聴力検査（気導）（オーディオメータ AA-H1）結果と病室における標準純音聴力検査（気導）（タブレットオーディオメータ iAudiometer 搭載

の iPad) 結果の Pearson の積率相関係数を求める. 統計解析は R(ver. 4.0.1)を使用する.

(2) 危険性・副作用等

特になし。

<倫理上問題になると考えられる事項>

データ提示により個人が特定されないよう、氏名、性別、疾患名などの個人情報は一切記載しない。

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 リハビリテーション科 言語聴覚士 中澤 肇

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648